

看護学科：カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

●教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

看護学科では、教育理念・目標に基づき、①看護の対象となる人間を総合的に理解でき、②高い倫理観を持ち看護の対象となる人間の権利を守ることができ、③健康に関わる諸問題の解決に必要な知識・技術を主体的に学び創造する能力をもち、④関連領域の専門家と協力し必要に応じて調整的な役割を果たす能力、および⑤看護を批判的に吟味し建設的・創造的に発展させる能力をもち自己啓発のできる看護職者の育成を主な目的とした教育課程を編成・実施します。

カリキュラムの特徴として、将来の職業選択に生かせるよう、選択科目を多くした多様性のある教育を行っています。特に実習では、保健師課程の公衆衛生看護学実習、助産師課程の助産学実習の他、将来、キャリアアップに役立つ看護の専門分野での実習や、看護に役立つスキルを身につける実習などが選べます。また、医学部附属病院を主な実習病院としていることから、充実した最新の医療における看護が学べます。なお看護学科を修了した者は、看護師の他に保健師、助産師になるための国家試験受験資格を得ることができます。加えて、所定の単位を取得し保健師国家試験に合格したものは、養護教諭2種を取得することができます。

〈教養教育〉

入学初年次より、幅広い人間性と感性を養うための知識体系としての基礎科目を学びます。また、看護の対象となる「人間」をより深く理解するためのコミュニケーション能力や、医療をめぐる諸問題等について学び、看護職者としてふさわしい倫理観と幅広い教養と心身を豊かにするための素養を身につけます。

〈入学初期から2年次における基礎医学教育の導入および基礎看護学〉

専門基礎科目では、専門教育に必要な基礎学力と、生命基礎科学、健康科学、環境科学を学び、看護職者として必須な生命の基礎に関する学力を身につけます。また、将来の看護のリーダーとして自ら学び研鑽する力を養うための看護学入門や、「看護とは何か」について常に考え行動する能力と技術を学ぶ基礎看護学の科目を履修することで、自己啓発能力と創造的思考力を備えた専門職者としての看護のあり方について学びます。

〈2年次からの看護学専門領域の講義・演習〉

2年次から3年次にかけて、将来看護師として人々とかわるために必要な専門的知識・技術を講義ならびに演習を通して学びます。特に、乳児期から青年期、成人期、壮年期、老年期における、さまざまな急性的・慢性的健康問題に対し、適切な看護ケアを提供する能力と技術を学びます。また、複雑化・重症化する健康問題に対処するため、災害看護学やがん看護学、ターミナル看護学など専門的な看護の領域における知識と技術を修得します。加えて将来高度実践看護師等の専門性の高い看護師になるための素養を身につけます。最終学年次である4年次には、自らのテーマを決め研究を実施し、卒業研究をまとめることで研究的視点を養います。

〈臨地実習〉

臨地実習は、1年次の基礎看護学実習に始まり、4年次までに、病院や地域の施設で実習を行います。実習場所は、福井大学に隣接する医学部附属病院、学外の医療施設 及び介護老人保健施設など多岐にわたります。臨地実習の目的は看護実践能力の向上にあります。看護技術の到達度を確認しながら、創造的に看護技術を提供し、あらゆる健康レベルに対応した看護を展開します。また、看護実践のあらゆる場面で、看護の理論と実践を結びつけて理解する能力やチームの一員としての連携・協働する能力を学びます。

〈保健師課程（選択）〉

保健師課程では、性別、年齢、そして病気や障がいの有無に関わらず、地域で生活するすべての人々がより健康に安心して暮らせる支援ができるよう、看護の知識・技術はもちろん、健康と深くかかわる環境、医療、福祉の視点からも学びを深めます。講義・演習・実習（健康福祉センター（県の保健所）、市町村保健センター等）を通じて、“地域”で“地域”を支援できる保健師の育成を目指します。

〈助産師課程（選択）〉

助産師は、出産する人が安心して分娩できるよう、病院や産院・助産所で妊産婦への指導や分娩時の介助、新生児のケアや育児相談などを行い、さらに、女性や家族の一生を通した性と生殖をめぐる健康問題に関わる専門職です。

助産師課程では、妊産婦および胎児・新生児の健康状態を診断し、自然で安全な妊娠・出産・産後の経過を見守り、育児がスムーズに行なえるよう援助できる能力について修得します。また、女性や家族の一生における性と生殖をめぐる健康問題についても、相談や教育、援助活動ができる知識やスキルを修得します。さらに、女性や家族が安心して子どもを産み育てるため、個人や社会にとって必要な地域の社会資源の活用や調整を行なえる能力を修得します。

● 学位授与の方針（ディプロマポリシー）

看護学科では、教育理念・目標に基づき、①看護の対象となる人間を総合的に理解でき、②高い倫理観を持ち看護の対象となる人間の権利を守ることができ、③健康に関わる諸問題の解決に必要な知識・技術を主体的に学び創造する能力をもち、④関連領域の専門家と協力し必要に応じて調整的な役割を果たす能力、および⑤看護を批判的に吟味し建設的・創造的に発展させる能力をもつ看護職者にふさわしい能力・技能等を修得した者に学位を授与します。

所定の期間在学し、カリキュラムポリシーに沿って設定した授業科目を履修し、履修規程で定められた卒業に必要な単位を修得することが学位授与の要件です。

卒業時までには修得すべき具体的な能力・技能等は以下の様です。

1. 看護職者としての知識・技術

- ① 看護師国家試験の合格に必要な医学・看護学の知識を修得している。
- ② 対象者と自らの安全を守り、対象者の状況に合った看護を実践するための看護基本技術を修得している。
- ③ 対象者の身体的・精神的・社会的問題についての的確に判断し、問題解決のための計画・実施を行い、自らの看護ケアについて評価する能力を有している。

2. 看護職者としての態度・姿勢

- ① 看護職者にふさわしい倫理観と良識を備えており、対象者の代弁者となり得る責任感を持っている。
- ② 対象者に対し共感できる感性を持ち、対象者を思いやるケアリングの精神を備えている。
- ③ チーム医療の一員として、協働できる協調性と、対象者、家族、チーム構成員と良好な関係を構築できる対人関係能力を備えている。

3. 看護職者として自己研鑽する意欲

- ① 医学・看護学の進歩や社会的ニーズの変遷に対応すべく、常に知識と技術を磨く自己研鑽する意欲を備えている。
- ② 常に新しい情報に敏感で、よりよい医療・看護を追求し開発していく向上心と探求心を有している。
- ③ 自らの特性と興味を自覚し、高度実践看護師等、将来歩むべきキャリアラダーについて考え計画する能力を有している。
- ④ 将来、災害看護や国際看護など、専門性の高い領域で活躍する看護師としての素養を有している。

4. 保健師・助産師としての専門的知識・技能

- ① 保健師課程を選択した者は、保健師国家試験の合格に必要な公衆衛生看護における知識を修得し、公衆衛生向上に向けた保健活動を展開する技術を修得している。
- ② 助産師課程を選択した者は、助産師国家試験の合格に必要な助産学における知識を修得しており、周産期医療の向上のための助産活動を展開する技術を修得している。

カリキュラム・ディプロマポリシーの検証（ポリシー・アセスメント）

看護学科では、教育課程の人材育成に対する有効性や卒業時に備えなければならない能力・技能等の修得状況を随時検証しています。検証結果をフィードバックして、教育課程をより良いものにする不断の努力を続けています。

ポリシー	方法	評価実施時期
カリキュラム・ポリシー	カリキュラム評価アンケート	各学年終了後（次学年開始時）および4 年次終了後（卒業研究終了時）：毎年
	学生支援活動アンケート	1年次生、2年次生、教員（前期終了時）： 毎年
	学生による授業評価	全科目：毎年
	学生による臨地実習アンケート	全臨地実習：毎年
	卒業研究アンケート	卒業研究終了時：毎年
ディプロマ・ポリシー	看護師国家試験	2月：毎年
	保健師国家試験	
	助産師国家試験	
	看護基本技術チェック	各臨床実習終了時：毎年
	学生による授業評価	全科目：毎年
	既卒者による教育評価	随時
	受け入れ医療機関による評価	随時
	卒業研究	12月：毎年